

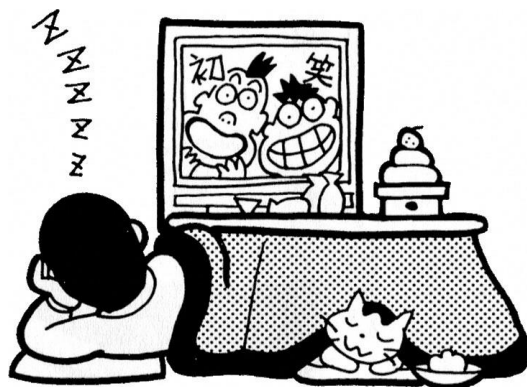
小児科だより vol.52

～ 一年の計は元旦にあり パート5 ～

2021.1.4 発行

あけましておめでとうございます。本年も、市立御前崎総合病院小児科並びに小児科だよりをよろしくお願いたします。

1月の小児科だよりは、毎年同様のテーマで、出生・誕生の瞬間に起こる変化と、それに伴う試練や蘇生法に関するお話を書いております。気になる方は、病院ホームページから過去の記事を参照していただけますと幸いです。



新生児蘇生に関して、これまで4回にわたってお話をした通り、小児科医師だけではなく、分娩にかかわるすべての産科医師・助産師・看護師が、標準的な新生児蘇生法の理論と技術を習熟しておくことが重要と考えられており、日本周産期・新生児学会を中心に、講習会を通じて新生児蘇生法を習得するためのプロジェクトを進めています。しかしながら、何らかの理由で病院前、すなわち自宅や救急車含めた車内での分娩も生じており、その赤ちゃんたちが新生児集中治療室に搬送されることも稀ではありません。

全国の消防本部への調査において、2015年における施設外分娩の取り扱い件数は、891件で、内訳は、すでに娩出660例(74%)、搬送中の車内で分娩133例(15%)、到着現場で救急隊立会いのもと分娩82例(9%)でした。新生児に対して心肺蘇生が行われたのは、47例(5.3%)で、新生児の転帰として5%の方がお亡くなりになっています。アンケートでは、消防本部に勤務する救急救命士の約半数において、施設外分娩への立ち合い経験がないこともあり、救急隊が新生児蘇生法を学ぶ必要性に関して、不要と回答した消防本部はなかったとのこと。

これらの経緯から、これまでの主に病院勤務者を対象にした新生児蘇生の講習会に加えて、2019年に主に救急隊員などを対象とした病院前新生児蘇生法(Prehospitalコース、以降Pコース)の講習会が新設されました。当科では、数年前から地域の助産師の方々の協力の下、消防隊及び救急隊や保健師などを対象として、災害時対応を含めた病院前分娩と新生児の蘇生に関する勉強会を開催しております。

現在、開催しているA(専門)コースやS(スキルアップ)コース(過去の記事に詳細は載っています。)に加えて、今後はPコースも開催できるように準備を進めてまいりますので、興味を持たれた方は、新生児蘇生法普及事業(NCPR)のホームページをご参照いただくか、小児科外来までお声がけ下さい。